

今月の PICK UP



『やりなおし世界文学』 津村 記久子／著 新潮社 904 ヲ

気になりつつも読まずに過ごしてしまった名作、あなたにもありませんか。本書は、そんな名作たちと、作家の津村さんが出合い直した記録です。SFやミステリ、児童文学も含めた古今東西の文学全92作品が紹介されていますが、構える必要はなし。『あるお屋敷のブラックな仕事』『英仏海峡をまたぐ樽まつり』『愛していると思うよだからどうだというんだ』『孫子曰く、「長引くのはほんとうにダメ」』など、各作品のポイントを押さえた章題がまずおもしろく、興味を誘います。関西弁のツッコミや、ときに毒舌もまじる軽妙な筆致で、物語のうまみと面白さを存分に伝えてくれます。

司書の おすすめ

『こびとの世界』 Mozu／著 玄光社 507.9 円

僕の部屋のかたすみに、こびとが住んでいる。でも姿を見たことがないので、いくつぐらいのどんな子(または大人?)なのかはわからない。

そんなコンセプトで作られたミニチュア世界の12作品が紹介されています。それぞれの作品の精巧な作りに驚き、また、そこに住むであろうこびとの生活を想像して楽しくなります。解説には、作品を二度見させる裏話がいっぱいです。



野菜と果物すごい品種図鑑 竹下 大学／著 エクスナレッジ 626.1 円

この本は野菜と果物の品種についてだけではなく、歴史や収穫量ベスト3、選び方と保存方法、トリビアも載っています。また、ものによっては「食味 MAP」と題して、硬軟と酸味の強弱について品種の分布図まであります。特に「美味しい歴史がまるわかり年表」は、その野菜や果物がどのような経緯で広まったのかはもちろん、世間での流行や関連する本も取り上げており、見ていて非常に楽しいものとなっています。



『深夜航路 午前0時から始まる船旅』 清水 浩史／著 草思社 291 ヲ



夜行フェリーと聞いて、どんなことが思い浮かびますか？旅行や帰省で利用したという方もおられるのではないのでしょうか？午前0時から3時に出航する深夜便、全14航路のフェリーに著者が乗船し、その魅力を綴った乗船記です。大型船からレトロな雰囲気のある船、所要時間最短15分最長20時間など各々特色があり、「自分ならどのフェリーに乗りたいか」想像を膨らませながら読んでみても楽しいと思います。

「歴史からでも楽しい!おもしろ日本音楽」 釣谷 真弓／著 東京堂出版 768 ヲ

国内外で活動する箏曲家である著者は、狂の付くほどの歴女です。知られざる日本音楽の歴史が、古代から現代までの年表で大きな事件や社会現象と共にまとめられています。

日本楽器の逸話として、三味線誕生の定説や、まか不思議な歴史を持つ尺八の話、銘菓八つ橋と近世箏曲の祖である八橋検校の話など、歯に衣着せぬ小気味よい語り口を通して日本音楽の面白さが伝わってくる一冊です。

